

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2025年度 授業計画		
時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2A
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品			発行日
総時限	33時限				2025年5月23日
必須時限	32時限				
			教科 担当	田口 桂 東 翔太	
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当					
自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。					
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）					
1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 重量物脱着を行う場合の作業方法、そのときの注意点を学ぶために行う。 3. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 4. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。					
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来ようになるのか）					
1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 2. サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックが出来る。 3. 車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しく出来る。 4. 重量物脱着時、共同作業時の危険予知を常に意識させること。 5. A Tの脱着の手順を理解し、安全に正しく、確実に出来る。 6. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。 7. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。 8. 臨機応変な作業を身に付ける。 9. E S Mを活用し脱着手順、点検要領、基準値などを探せるようになる。					
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）					
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。					
5. 準備学習					
適切な工具の使用方法・工具選択方法を確認しておくこと					

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2025年度 授業計画

時 期	2年前期	単元	実習	教科名	車両2A	
5. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					6. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	実習概要、安全作業について				スカイライン(V37)	5
2～17	A班：FFオートマッチクランスアクスル脱着（B17）				シルフィー（B17）	5
17～32	B班：FRオートマッチクランスミッション脱着（V37）				排気ダクト	10
33	車両復元				作業台	10
					パーツキャディー	20
	途中各試験を実施する				ウエス	適量
	A 班：時間内にトルクコンバータの脱着				ペーパーウエス	適量
	ドライブシャフト脱着				クロスレンチ	10
	B班：時間内にA/T脱着				エアインパクトレンチ	10
	プロペラシャフト脱着				ソケット（21）	10
1	実習概要				エクステンションバー（125）	10
2	安全作業について				プレート型トルクレンチ（230 F	10
	A班：FFオートマッチクランスアクスル脱着（F15）				プレート型トルクレンチ（920 F	10
3	エンジンルーム内 部品配線取り外し				プリセット型トルクレンチ（1800	10
4					フェンダーカバー	10台分
5	サスペンション部品取り外し				グリルカバー	10台分
6					足マット	10台分
7	ミッション取り外し				ハンドルカバー	10台分
8					シートカバー	10台分
9	インヒーターSW点検試験				A T F（CVT用20ℓ）	5
10	ミッション取り外し取り付け				A T F（A T用20ℓ）	5
11					リフトアタッチメント	10台分
12	サスペンション部品取り外し部品取り付け				ソケット（30）	10
13					ラチェット	10
14	ドライブシャフト取り付け試験				ハブロックナットレンチ	10
15	エンジンルーム内 部品配線取り付け				タイヤレバー	10
16					ミッションジャッキ	10台分
17					エンジンサポート	5台分
	B班：スカイラインミッション脱着、アトラスミッション脱着				オイルチェンジャー	1
18	下回り アンダーカバー、マフラー、プロペラシャフト等部品取り外し				B17ドライブシャフトシール	5台分
19					V37 AT脱着整備要領書	5台分
20	ミッション取り外し				E S M（パソコン）	5台分
21						
22	コンバーター脱着テスト					
23	ミッション脱着テスト					
24						
25	ミッション取り付け					
26						

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニックス科、 自動車整備・トータルマスター科			2025年度 授業計画			
時 期	2年前期	単 元	実 習	教科名	車両2B	
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品		発行日	2025年5月22日	
総時限	33時限		教科	田口 桂		
必須時限	32時限		担当	東 翔太		
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当						
自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）						
1. 電気の回路図を読み取ることができる。 2. 不具合現象の確認からその回路を特定できる。 3. 故障診断器を使用し不具合箇所の絞り込みができる。 4. 測定結果から不具合部位の特定ができる。 5. 安全にドアレギュレーターの脱着ができる。						
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来ようになるのか）						
1. お客様の車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 2. テスターを正確に使いこなすことができる。 3. 電気回路図から電気の流れを読み取る。 4. 不具合現象から正常時の電気の流れを読み取り各点の正常電圧が分かる。 5. 測定結果から不具合部分を特定できる。 6. 故障診断器を使用し、データモニタ・アクティブテストを実施系統を判断できるようになる。 7. ドアレギュレータ・ドアガラスを安全に取り外すことができる。 8. 確実にドアレギュレータを取り付け、作動確認ができる。						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）						
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。						
5. 準備学習						
電気配線の色、カプラーのオス、メスなど1年で習ったことを見直しをする。						

2025年度 授業計画

[illegible]

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2025年度 授業計画		
時 期	2年後期	単 元	実 習	教科名	車両2C
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	定期点検整備要領書		発行日
総時限	33時限				2025年5月23日
必須時限	32時限				
			教科 担当	田口 桂 東 翔太	
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当					
自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。					
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）					
・実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 ・法定2年点検を理解し実施できる。 ・正しく記録簿が記入できる。 ・検査ラインが使用できるようにする。					
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）					
・お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 ・サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックができる。 ・車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しくできる。 ・法定2年点検ができる。 ・各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。 ・安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。 ・検査機器を取り扱えるようになる。					
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）					
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。					
5. 準備学習					
・定期点検整備要領書を確認し、1 2ヶ月点検の項目を復習しておくこと					

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2025年度 授業計画

[illegible]

自動車整備科、一級自動車工学科、 自動車整備・カーボディマスター科、 自動車整備・マスターメカニック科、 自動車整備・トータルマスター科			2025年度 授業計画		
時 期	2年後期	単 元	実 習	教科名	車両2D
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品	日産 T S 3 級 お客様対応テキスト	発行日	2025年5月22日
			日産 T S 4 級 お客様対応テキスト		
総時限 必須時限	33時限 32時限				教科 担当
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当					
自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。 自動車整備士として電気装置整備の実務経験がある教員により電装品の構造・作動について指導する。					
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）					
1. 実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 2. 共同作業の大切さを学ぶために行う。 3. 繊細な作業、大胆な作業の判断を付けるために行う。 4. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができる。 5. サーキットテストを用いて正確に測定ができるようになる。					
3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか）					
1. お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 2. 撥水コーティング、ホイールコーティングができるようになる。 3. 各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。 4. 安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。 5. 点検作業に付帯する、定期点検部品の交換作業ができるようになる。 6. 配線図をしっかりと読み、テスターを使用して正確に測定することができる。					
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）					
・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。					
5. 準備学習					
記録簿の書き方の復習をしておくこと 配線図の見方、サーキットテストの使用方法を復習しておくこと					

自動車整備科、一級自動車工学科、
自動車整備・カーボディマスター科、
自動車整備・マスターメカニック科、
自動車整備・トータルマスター科

2025年度 授業計画

[illegible]